



平成 29 年 4 月 19 日

各 位

会 社 名 京 浜 急 行 電 鉄 株 式 会 社
代 表 者 名 取 締 役 社 長 原 田 一 之
(コード番号 9006 東証第1部)
問 合 せ 先 経 理 部 主 計 課
(TEL : 03-3280-9135)

特別損失（減損損失および関係会社株式評価損）の計上
および通期業績予想の修正に関するお知らせ（連結・個別）

当社は、平成 29 年 3 月期（平成 28 年 4 月 1 日～平成 29 年 3 月 31 日）において、特別損失として、固定資産の減損損失および関係会社株式評価損を計上いたしますので、平成 28 年 11 月 9 日に公表した通期業績予想の修正とともに、下記のとおりお知らせいたします。

記

1. 減損損失の計上について

平成 29 年 3 月期（平成 28 年 4 月 1 日～平成 29 年 3 月 31 日）において、当社および連結子会社が沿線に保有する固定資産（上大岡京急ビル）について、「固定資産の減損に係る会計基準」に基づき将来の回収可能性を検討した結果、帳簿価額を回収可能価額まで減額いたします。

この結果、連結で 218 億円、個別で 133 億円の減損損失を計上いたします。

2. 関係会社株式評価損の計上について

上記 1 に伴い、平成 29 年 3 月期の個別決算において、当社が保有する株式会社京急百貨店の株式の実質価額が低下したため、「金融商品に関する会計基準」に基づき、関係会社株式評価損 35 億円を計上いたします。

なお、連結子会社株式の評価損のため、連結決算に与える影響はありません。

3. 通期業績予想の修正について

(1) 平成29年3月期通期連結業績予想数値の修正(平成28年4月1日～平成29年3月31日)

	営業収益	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する 当期純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	313,000	31,300	28,200	37,000	67.17
今回発表予想(B)	310,000	38,000	35,500	22,500	40.85
増減額(B-A)	△3,000	6,700	7,300	△14,500	
増減率(%)	△1.0	21.4	25.9	△39.2	
(ご参考) 前期実績 (平成28年3月期)	313,217	14,809	11,790	△3,011	△5.47

(2) 平成29年3月期通期個別業績予想数値の修正(平成28年4月1日～平成29年3月31日)

	営業収益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	126,500	14,800	28,500	51.74
今回発表予想(B)	127,000	20,500	18,000	32.68
増減額(B-A)	500	5,700	△10,500	
増減率(%)	0.4	38.5	△36.8	
(ご参考) 前期実績 (平成28年3月期)	122,008	△539	△9,309	△16.90

(3) 修正の理由

平成29年3月期通期の連結業績予想について、営業収益は、交通事業などが前回予想(平成28年11月9日公表)を上回るものの、不動産事業、流通事業が前回予想を下回るため下方修正しております。また、利益面では、交通事業の増収に加え、交通事業や不動産事業での営業費の減少などもあり、営業利益、経常利益を上方修正しておりますが、上記1に記載のとおり、特別損失として減損損失を計上することから、親会社株主に帰属する当期純利益を下方修正しております。

また、個別業績予想についても、上記1および2に記載のとおり、特別損失として減損損失および関係会社株式評価損を計上することなどから、当期純利益を下方修正しております。

4. 上大岡流通事業の今後の見通しについて

百貨店業界におきましては、個人消費の低迷等により売り上げが減少し、この傾向は今後も続くものと考えております。このような厳しい事業環境のなか、当社グループは、2035年度を目標年度とする経営計画の達成に向け、2016～2020年度を構造変革期と定め、構造変革を進めております。

上大岡流通事業の核である京急百貨店は、京急グループが目指す「豊かな沿線」の実現のため、「生活者本位制百貨店」として「地域のファミリーやコミュニティの集いの場」としての魅力をさらに向上させてまいります。50歳代以上の中心顧客層に加え、最も来店人数の多い40歳代を次世代顧客層として、働く女性の増加など生活ニーズの変化にきめ細かく対応し、顧客満足と収益力の向上を図ってまいります。

以 上